

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	南 博信
-----------	------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	c
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	d
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	c
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	c

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>第II期のプロジェクトより主幹校の九州大学に加えて、長崎大学、鹿児島大学に臨床腫瘍学の講座が新設され、九州を3地域に分けそれぞれがリーダーシップをとる体制を整備した点は評価できる。また、eラーニング専任のスタッフを雇用したり、TV会議を利用するなど、広域の九州地区での教育体制を充実しようとしており、地域の特性に合わせた活動と評価できる。</p> <p>過去のがんプロ卒業生と新がんプロ学生が交流できる場を提供して良い結果をあげた大学があることに基づいて、九州がんプロとして交流の場を提供することを計画している。卒業後のキャリアパスの参考になり、またがん医療に継続的に関わってもらうためにも大変重要なことと考える。ぜひ成果をあげて欲しい。</p> <p>実際の教育活動は今年度は主に講演会やセミナーが活動の中心である。今年度は教育コースの開講が一部に留まったとのことであり、学生の受け入れ目標が0のコースが75%もある。第II期プロジェクトからの継続性も重要であり、がん医療に携わる医療人を常に育成する必要がある中で間断なく学生を確保することが求められている。ライフステージに応じたがんがん対策を推進する医療人もゲノム医療や希少がんに対応できる医療人も、がん診療を修得することが基本である。第II期プロジェクトからの継続性が必要の中、今年度からコースを開講しなかった理由が不明である。来年度以降に期待したい。</p> <p>資格に関しては旧がんプロコース生も含めて11名ががん治療認定医等の資格を取得したとのことであるが、がん医療の現場ではがん薬物療法専門医および放射線治療専門医の資格取得が求められている。がんプロ開始から10年以上が経過しているにもかかわらず、がん薬物療法専門医および放射線治療専門医の資格を取得するための教育体制が整っていない大学があるとすれば、その体制整備は急務であろう。</p>

2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	がん専門解剖検査士コースでは受け入れ目標2名のところ4名の学生を受け入れているが、医師、医学物理士の学生が0であり、学生の確保が求められる。がん医療人の育成は継続的事业であるべきところ、開講していないコースが多い。
福岡大学	実際には活動はしているものと予想するが、「内部評価報告書」からは具体的な今年度の活動が見えてこない。今年度コースを開講しなかった理由が不明である。
久留米大学	今年度の学生の受け入れはなく、講演や研修会を中心とした活動をしたようである。今年度コースを開講しなかった理由が不明である。
佐賀大学	今年度の学生の受け入れはなく、講演や研修会を中心とした活動をしたようである。学生確保のために具体的にどのような活動をしたのかが見えてこない。
長崎大学	今年度の学生の受け入れはなく、講演や研修会を中心とした活動をしたようである。西部エリアの拠点として学生確保、専門医育成のリーダーシップが求められる。
熊本大学	3名の受け入れ目標のところ5名の学生を受け入れている点は注目に値する。旧がんプロ卒業生の中から外科専門医、がん治療認定医の資格を取得しているが、これらはがんプロに入らなくても取得できる。本来の目的であるがん薬物専門医および放射線治療専門医の資格を取得するための教育体制の整備が急務であろう。
大分大学	他の多くの九州がんプロ参加校と異なり今年度から学生を確保している点が評価できる。座学以外の具体的な活動が「内部評価報告書」からは見えてこない。
宮崎大学	今年度の学生の受け入れはなく、講演や研修会を中心とした活動をしたようである。学生確保のために具体的にどのような活動をしたのかが見えてこない。
鹿児島大学	受け入れ目標数から判断すると今年度より医師コースを開講していると思われ、他のほとんどの大学が学生の受け入れを予定していなかったことを考えると、積極的に学生を受け入れようとしている姿勢は評価できる。残念ながら学生は確保できておらず、来年度以後の課題と考える。南部エリアの拠点として学生確保、専門医育成のリーダーシップが求められる。「内部評価報告書」の活動の一部はがん診療連携拠点病院としての活動と思われる。
琉球大学	今年度の学生の受け入れはなく、講演や研修会を中心とした活動をしたようである。学生確保のために具体的にどのような活動をしたのかが見えてこない。がん医療の専門医を育成するための教育体制を大学全体で整備する必要があると思われる。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	千堂 年昭
-----------	-------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	C
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	C
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	b
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	C

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>広範なエリアにわたる九州地区において目標達成のための事業活動の実施状況を共有化することは難しいと思われる。今回、拠点内の3つのエリア（北部、西部、南部）にそれぞれ幹事施設（九州大学、長崎大学、鹿児島大学）が中心となり、エリアごとで連携して展開していくことは意義があると思われる。今後、九州10大学の一体化に向けては、新たに設置された統括部門である「事業運営推進協議会」の役割は重要である。今後、本協議会の活動の成果を目に見える形で情報発信していただきたい。</p> <p>達成目標1 がん医療の新たな新ニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを構築中であることが伺える。現時点では大学間で格差が見られるが、eラーニング、テレビ会議システムの有効活用により教育コンテンツの共有化が望まれる。今回設置された「eラーニング支援室」の果たす役割が大きいのと思われる。今後の展開に期待したい。長崎大学と鹿児島大学の継続的事业である「僻地・離島医療専門医療人養成コース」は大学の個別の取り組みに留まらず各拠点全体に広げて欲しい。</p> <p>達成目標2 ライフステージ領域に関する教育プログラムの構築が順調に開始されている。今後の事業推進の準備はほぼ達成できていると思われる。各拠点で多職種が集える参加型講習会は有意義であるため、定期的な開催をお願いしたい。</p> <p>達成目標3 ゲノム医療や小児・希少がんに対する事業は各大学とも積極的に推進している。関心の高い領域であるため、国内外からの収集データを一元的に管理する部門が今後望まれる。</p> <p>今年度は初年度であるため、達成目標のための講演会、研修会の企画ならびに講師陣の選定に事業の大半が占めていると思われる。そのため、大学間、地域間での差が出ていると思われる。今後、中間評価に向けて教育リソースの効率的な共有化により、どの大学においても新ニーズに対応したがん専門医療人材の養成を推進できることを期待する。</p>

2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	がんゲノム医療、小児・希少がんに関する教育プログラムが充実している。 九州全体の連携活動を意識した事業計画が期待できる。 引き続き広報活動による新コースへの大学院生の受け入れ目標の達成が望まれる。
福岡大学	多職種での人材育成プログラムの充実が期待できる。 ホームページ上での広報活動も積極的に進めて欲しい。
久留米大学	次年度に向けて体制整備が進みつつある。 全体を統括するマネジメント部門の設置と北部エリア内での情報共有も望まれる。
佐賀大学	ライフステージに合わせた専門的ながんチーム診療を構築する医療人養成プログラムが実践されており、引き続き大学の特性に応じた事業を推進して欲しい。
長崎大学	離島・僻地実習や在宅医療実習の継続化と拠点内での教育体制の拡大が望まれる。 初年度で教育コース、研修会の企画、他大学との連携に向けて準備が進んでおり、次年度からの事業が期待できる。
熊本大学	大学院コース受け入れの目標達成とライフステージにおけるがん治療に対して、薬剤師養成のコースがスタートしたことは評価できる。今後、拠点内でのセミナー、研修会等の共同開催も進めて欲しい。
大分大学	小児・希少がんに関する医療人養成プログラムの構築が期待できる。 今後、多職種連携を意識したセミナー、研修会の開催も進めて欲しい。
宮崎大学	遺伝がん看護に関する教育プログラムは特筆できる。 今後、がん看護専門看護師の養成を基盤にして多職種人材養成に拡大して欲しい。
鹿児島大学	各事業において目標が達成されており、次年度に向けてさらなる加速が期待できる。 今後、拠点内での連携を通しての事業の活性化を期待する。
琉球大学	がん看護専門看護師養成のプログラムの充実とホームページ上での広報活動により、大学院コース、インテンシブコースへの受け入れを期待する。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	眞嶋 朋子
-----------	-------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	c
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>初年度において、必要な計画および修正コメントへの対応が記載されており、計画的に今後事業が推進されることが期待されます。</p> <p>広い地域でのゲノム医療を含む先進的ながん治療、希少がん、AYA世代、ライフステージを考慮に入れた患者・家族の地域での療養支援、さらに今後はゲノム医療の推進の課題など、大学院教育のみならず、九州各県、各拠点病院のリーダーシップが必要となるところだと思います。</p> <p>報告書を拝見させていただきましたが、九州大学を中心に、長崎大学、鹿児島大学の拠点のコーディネーターの先生方が連携を検討されているのがわかりました。</p> <p>国立大学で、複数のがん専門職の教育を有する大学が限られておりますが、がん看護専門看護師教育を行っている県立大学や、私立大学とも共同して、がん連携拠点病院内の専門職連携教育を推進されることを期待しております。</p> <p>また、達成目標3においては海外の先進事例を積極的に収集し発信するだけでなく、国内においても先進事例があると思われま。先進事例の中には、治療や診断だけでなく、複雑な問題を持つ患者・家族の問題や問題解決の事例もあると思ひます。ゲノム医療や小児・希少がんについて患者の視点からの先進的な事例の収集も大学院生の学習に有用な資料となると思ひます。幅広い教育に活用できる事例の収集や教育教材の開発を期待しております。</p>

2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	全般的に精力的に計画を立てられ、推進されていることがわかります。また、九州大学で推進されている内容を九州全域の多職種と共有できるとよいと思われる優れた内容があると思います。たとえばUscdは多職種連携も豊富な経験があるのではないかと思います。他大学と情報共有をされるとよいと思いました。
福岡大学	多くの学生を養成されていることがわかりました。学生さん達または医療職が、多職種連携の学習がさらに深まるような事例検討の機会などがあるとよいと思いました。
久留米大学	がん看護専門看護師教育の実績があると思いますので、多様な症例の検討を専門看護師教育のみならず、多職種と行っていただきたいと思います。
佐賀大学	進学者がない中、リクルートなど努力されていると思います。病院内での研修など臨床の医師看護師薬剤師などががん医療専門家としてのレベルアップが図れるように、他のがんプロで行われた研修などを共有されるとよいのではないかと思います。
長崎大学	島嶼医療が非常にユニークだと思います。地域の文化を考慮したがん医療の先駆的な地域になることが期待されます。
熊本大学	特にコメントはありません。 記載されている内容が、医師中心（一部薬剤師の方も含まれているようですが）の取り組みになっているように見えますので、もう少し、幅広い職種を含む取り組みが必要だと考えます。
大分大学	受講される方が多いようですので、もう少しセミナー等の目標の内容を系統立てられると先駆的な取り組みが計画できるように思います。
宮崎大学	緩和ケアチームの働きを中心に多職種連携の教育が進んでいるように見えました。
鹿児島大学	九州の中で先進的ながん医療を取り入れ、教育、実装されていることがよくわかり、中核的な大学であることがわかりました。多職種連携の部分がほとんど記載されていないことが気になりました。
琉球大学	長崎と同様に島嶼医療の中核的な大学だと思います。がん看護については、沖縄県立大学との協働が可能なのではないかと思います。